

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	NPO法人ふらの演劇工房	
施 設 名	富良野演劇工場	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,298	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	1,298	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域住民演劇活性化事業2018	平成30年8月～10月	<ul style="list-style-type: none"> ●学校名「作品名」 指導：富良野塾OBユニット所属 ●布部小中学校「なりたい」 指導：森上千絵 ●中富良野中学校「カラフル」 指導：久保隆徳 ●麓郷中学校「モノワスレ」 指導：大山茂樹 ●扇山小学校「西遊記」 指導：松本りき ●東中学校「雪の降る日に…」 指導：東誠一郎 ●山部小学校「みんなのために」 指導：水津 聡 ●富良野小学校 「魔法をすてたマジョリン」 指導：太田竜介 ●市民創作劇「ちっち」 指導：久保隆徳/大山茂樹 	目標値	4,000
		富良野演劇工場他		実績値	3,898
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	4,000
平成30年度の目標値、実績値				実績値	3,898

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

富良野演劇工場が果たすべき社会的役割（ミッション）

- I. 演劇を核にして大人も子どもも楽しめる豊かなふるさとづくり
- II. 日本中の人々が感動を求めて訪れる地域づくり

1976年に作家・脚本家の倉本聰氏が富良野に移住が起因している。氏は、富良野で創作活動を続け全国へ作品を発表。また演劇私塾を主宰し人材育成を35年間行ない多くの人材を輩出した。その活動に啓発された市民が2000年、公設民営劇場「富良野演劇工場」を設立。以来、「演劇によるまちづくり」を行っている。

その中核を担う取り組みが今事業である。市内・近郊の全市町村民がプロの演劇人の指導で、演劇作品の創作、出演、技術の習得を得、「富良野演劇工場」で作品を発表。この事業を支える組織として「富良野演劇工場」を中心に以下の団体が協力し官民協働による事業を成し遂げた。

【協力体制】

- 富良野市…協働による事業運営
- 富良野塾OBユニット…演技・技術指導
- 市、沿線町村の住民…事業参加、運営支援、観劇等

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

【富良野市の総人口の現状と将来予測】

昭和40年の36,627人をピークに減少傾向。過疎化の一途をたどる。富良野の農業・観光・環境を融合させ、地域の観光マーケティングやマネジメントを担う「富良野版DMO」を立ち上げ観光振興政策を実施している。その一翼を担うのがこの事業である。

【文化的意義】

富良野市を中心に沿線全体の市民・町民らが、倉本氏が育成したプロの演劇人の指導でクオリティーの高い芸術・文化の創造に携わる機会を創ることにある。プロの演劇人の人材確保することで「演劇によるまちづくり」している。

【社会的意義】

倉本氏によって知名度を上げた「富良野」が、この事業で名実ともに芸術・文化の地となり「地域住民の生きがい」「若者の都会流失の歯止め」「移住者の増加」を図る。

【経済的意義】

プロの演劇人の富良野居住を支え、商業的なロングラン公演が実施できれば「季節偏差の無い観光客の招致」繋がる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

【目標】

- ①劇場・音楽堂の活性化
- ②富良野市を中心に地域・沿線住民の事業への関心度の向上
- ③実演作品の水準向上

【指針】

- ①事業参加者数 2,000名以上
- ②成果発表時に各舞台の延べ観劇者数が定員の7割以上 1,680名以上

【結果】

●指針から見る成果

1. 事業参加者数 2,000名以上
→実績2,386人＝達成率 119%
 2. 成果発表時に各舞台の延べ観劇者数が定員の7割以上1,680名以上
→実績1,512人＝達成率 90%
1. 2. の総合的評価＝106%の達成なので、数字から見る目標はクリアしていると言える。

①劇場・音楽堂の活性化の観点から

- ・市内高校2校によるスピノフの「演劇祭」の開催による市民参加の拡がり
→毎年実施される今事業では、発表会の期日の制約があり、作品の発表は希望の小・中学校の参加に限られていた。しかし、平成31年度は、富良野市内の2つの高校がオリジナル作品をプロの演劇人の指導により、富良野演劇工場の舞台で作品を披露。「ふらの演劇祭スピノフ FURANO HIGH SCHOOL THEATER 2018」を実施した。
(参加・動員 146名…目標値は設定せず)

②富良野市を中心に地域・沿線住民の事業への関心度の向上の観点から

- ・「ふらの演劇祭」に、ことぶき大学の参加
→市内在住の60歳以上が参加できる生涯学習の場、「ことぶき大学」のシニアたちが参加し創作劇を披露。演劇祭の参加の幅を広げた。
- ・北海道新聞へのチラシ折込、取材記事、市広報、地元FM、市内小中高への告知の徹底を実施

③実演作品の水準向上の観点から

- ・2003年に第1回実施から、第16回まで途切れることなく実施されてきた「ふらの演劇祭」は、指導者のクオリティーに加え、受講者たちの「演劇まち・ふらの」に対する気概が増している。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【期間について】

2018年10月6日～8日に富良野演劇工場で実施された「ふらの演劇祭」に向け、各学校及び市民向けの普及啓発事業は、予定通り6月から準備が始められ事業が滞りなく行われた。

事業の推進にあたって、実施の行程は以下のように進行した

●子どもたちのための演劇指導

富良野市内・近郊の小中学校7校にプロの演劇人である富良野塾0Bの俳優を指導者として選任。

上演作品決定後、制作プランを各校と協議。

その後、各学校で4回、富良野演劇工場で3回、計7回の演技指導を行った。

富良野演劇工場の練習時には技術指導の富良野塾0Bが新たに加わり、プロ仕様の機材操作を担当児童、生徒、教師に指導。

総合芸術としての演劇作品を仕上げ、ほぼ満席の観客を大いに沸かせた。

●大人たちのための演劇指導

指導対象は2000年、富良野演劇工場の設立の一年後から発足した市民劇団「へそ家族」。

今事業で、その劇団の年に一度の定期発表会に演技・技術で参加するスタッフ・キャストを6月から公募。

富良野塾0Bユニットに所属する俳優2人の指導を受け、8月以降から、演出プランを打ち合わせ。

9月上旬から10月8日の富良野演劇工場での本番まで20回以上の指導を受け創作劇を完成させた。

【事業費について】

当初の計画に則り予算通り執行された

富良野塾0Bユニット業務委託 3,062,500円

【内訳】

演劇指導	7校、7回、	49回	1,102,500円
市民劇演技指導	2人	20回	700,000円
技術指導	舞台1人	28回	420,000円
技術指導	照明・音響2人	56回	840,000円

【助成金】 1,298,000円

【自己負担額】 1,764,500円

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】劇場・音楽堂等が地域の文化拠点として機能を最大限に発揮するための資源

【象徴する人物…倉本聰氏】

1977年、富良野に移住。1984年、役者と脚本家を養成する私塾・富良野塾を設立。2010年閉塾後は、卒業生を中心に創作集団・富良野GROUPを立ち上げ、舞台公演を中心に活動する。代表作は『北の国から』『前略おふくろ様』『うちのホンカン』『風のガーデン』（以上TVドラマ）『悲別』シリーズ、『ニンゲル』『ノクターン-夜想曲』（以上舞台）『駅 STATION』『冬の華』（以上劇映画）他多数。
2000年富良野市が建設し、日本第一号のNPO法人ふらの演劇工房が指定管理で運営する「富良野演劇工場」の設立に深く関わり、以降「創造主」の役割で施設の運営を見守る。自身の演劇集団『富良野GROUP』のロングラン公演を実施。
2017年から現在まで1,000本に及ぶドラマ脚本の作品について「富良野やすらぎの刻」と題し、富良野演劇工場トークライブラリーを無料で実施。文化・芸術の普及に寄与している。

【鍵となる人物…太田竜介工場長】

『富良野塾』の10期生。2000年の劇場開設以来、その管理・運営に携わって来た。太田工場長が2018年度の北海道文化財団のアート選奨に選ばれた。アート選奨は同財団が2016年設立し、4回目で札幌市以外の文化・芸術関係者として選出された。

【提携団体…富良野塾OBユニット】

富良野塾OBユニットとは、『富良野塾』の卒塾生であり、富良野を拠点に活動する俳優、スタッフ達によって2008年に結成された演劇集団。演劇活動だけにとどまらず、演劇を通じたワークショップや、コミュニケーション能力の向上など、全国の学校関係者や企業などからの依頼を受ける。今事業では、演劇及び技術指導を受ける。

【富良野演劇工場】

- ・舞台ホール…客席は302席のベンチシート。急傾斜なのでどの席からも見やすい
- ・リハーサルルーム…舞台の奥にある仕切り扉を開けると奥行きのある舞台として利用可
- ・スタッフルーム…スタッフ控え室。20人収容可
- ・ワークショップ…搬入口のある、大道具製作用など、舞台制作者の為の設備が完備

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【視点2】 普及啓発の企画内容の独創性、新規制、先導性**●事業の成果**

- ・子どもたちの指導…プロの演劇人による指導を受けられる経験は、作品を発表する事だけではなく、創作過程で多くを学べた。表現力や発表に向かっての連帯感など、生徒一人一人の今後の社会生活にも役立てるような効果があった。
- ・大人たちの指導…参加者らに仕事や学校、家庭などでは味わえない充実した時間を提供し、質の高い作品が創れた。プロの演劇人らが培った演技力や芝居作りというクリエイティビティーを市民が無料で経験できることは非常に素晴らしい。

●富良野塾OBユニット公演「みずのかけら」のロングラン公演の成功

普及啓発の講師である提携団体「富良野塾OBユニット」は、倉本聰氏に鍛えられたノウハウにより、文化・芸術の素晴らしさを啓発し続けている。
2018年度のオリジナル演劇公演「みずのかけら」は、富良野市及び地域沿線の動員が2,000人を超え、ついには札幌「かでる」での上演に漕ぎつけた。

●体験学習「コミュニケーションワークショップ」の受入れ、普及啓発事業をきっかけに、演劇を切り口としたシアターゲームなどで、演劇工場職員及び富良野塾OBユニットが学校の体験学習や会社の研修、地域のコミュニティからワークショップの実施を要望されることが多くなった。現在までに年間60本以上のワークショップを道内外から受け入れている。**●「フラノ・ハイスクール・シアター」の実施**

今事業では、小中学生及び一般市民が対象となる事業であるが、発表が10月となるため、就職、受験等で時間が取れない高校生のために、時期を夏にずらした演劇フェスティバルを実施するようになった。市内2つの高校が、今事業と同じノウハウとステップを踏む、舞台創作に取り組む。事業の拡大・発展につながっている。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

- ①公設民営劇場「富良野演劇工場」の指定管理の委託継続の決定
NPO法人ふらの演劇工房の2019年度～5年間の委託が確定した。
- ②平成31年度公共ホール演劇ネットワークの締結
2019年度の公演事業「めにみえない みみにきこえない」作品の上演をきっかけに全国各施設9者と平成31年度公共ホール演劇ネットワークを形成し事業を実施する。
- ③ふらの舞台塾の発足
富良野市を中心に沿線の町村とネットワークを組み、地域住民に向けて、演劇公演やワークショップの実施を行う組織として、官民協働による2019年度の新しいネットワークが継続予定
- ④ホール協議会への参加
道内の劇場支配人で構成される「ホール協議会」を毎月開催し、それぞれの劇場の立場からアートマネジメントに関わる提言を行い、議論する研修を行っている。また、中央からの演劇作品を招聘するための作品選定や、経費削減のための劇場連携についても議論している。
- ⑤富良野高校単位制選択科目「舞台創作」「身体表現B」への講師派遣
2015年から「演劇のふらの」を標榜する富良野の特徴を取入れ、道立「富良野高校」が選択科目として導入した科目に当NPOが講師を派遣する取り組みの継続